

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----|----|----------|---|----|--------------------------------|-----|----|----|---|
| 2020年度 日本工学院八王子専門学校 | | | | | | | | | | | |
| 音響芸術科 | | | | | | | | | | | |
| ライブ・エンタテインメント4 | | | | | | | | | | | |
| 対象 | 2年次 | 開講期 | 後期 | 区分 | 選 | 種別 | 講義 | 時間数 | 30 | 単位 | 2 |
| 担当教員 | 山崎進 | | | 実務 経験 | 有 | 職種 | レコーディング&マスターリングエンジニア、音楽プロデューサー | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 近年のライブでのエンタテインメント音楽産業の中、益々の盛況を遂げている。またコンピュータによるステージ装置や興行事業の進化も著しく、映像分野にも多大な影響を与えている。そのエンタテインメントを知ることで音楽制作は基より幅広い知識を身につけ音響を軸とした、興行の理解を目的とする。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | | | | |
| ステージの基礎的なあり方の理解を広げていく。またライブによるエンタテインメントのジャンルを学習していくことにより、音楽制作の基本的な部分を理解し、総合的な音楽制作・音響の関わりを音楽制作者として知識を豊富にしていくことを目標とする。近年のデジタル化や興行形態も増えている事を理解して、これからの新しい分野にも視野を向けた人材育成の対応を目指す。 | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | | | | | | | | | | | |
| 講義形式で行う、プリント資料を随時配付し、自分で完成させるワークタイプの物も配布するが、各自でステージ関連の用語集を持参する事が望ましい。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。図面や映像、音響資料も多用する。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | | | | | | | |
| 期末試験・課題・レポート・平常点を総合的に評価。 | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | | | | | |
| 音楽制作のプロフェッショナルとしての私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書教材 | | | | | | | | | | | |
| 授業内で資料プリントを配布する。その他参考資料は授業中に指示する。 | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業計画 | | | | | | | | | | |
| 第1回 | 前期試験の検証結果前期の主な復習と試験結果からの復習と後期の講義説明 | | | | | | | | | | |
| 第2回 | ステージのセッティング図の読み方ステージのセッティング図の読み方、PAシステムから観た開催時のあり方がわかる。 | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 日本の代表するステージパフォーマンス「松任谷由実」音楽制作現場、ライブについてわかる。 | | | | | | | | | | |

ライブ・エンターテインメント4

| | |
|------|-------------------------------------------------------------------|
| 第4回 | 日本の代表するジブリイベント日本アニメ映画の最高峰『スタジオジブリ』ライブの事がわかる。 |
| 第5回 | 日本の最近注目する音楽劇イベントDVDのコンサート売上のNo1「サウンドホライズン」のライブについてわかる。 |
| 第6回 | 海外の代表するこれまでステージ（アメリカPart1）エンターテインメントを主としたコンサートのあり方がわかる。 |
| 第7回 | 海外の代表するこれまでステージ（アメリカPart2）スタッフとアーティストとの仕事の関わり方のイベントの開催までの道のりがわかる。 |
| 第8回 | ヨーロッパの代表するコンサートPart1コンサートのランキングの上位の様子が変わる。 |
| 第9回 | ヨーロッパの代表するコンサートPart2往年の名アーティスト<ビートルズ・ローリングストーンズ等>についてわかる。 |
| 第10回 | アジア件のライブエンターテインメントPart1韓国の音楽シーンが変わる。 |
| 第11回 | アジア件のライブエンターテインメントPart2台湾・中国・インドを中心とした音楽制作が変わる。 |
| 第12回 | サテライトスタジオとしてのラジオ放送ラジオ現場、ライブとしての「ラジオドラマ」が変わる。 |
| 第13回 | コマーシャルのよるエンターテインメント映像のライブエンターテインメントとしてのCMが変わる。 |
| 第14回 | コンサートの制作の裏側ライブ・コンサートの制作の裏側、主催者の役割が変わる。 |
| 第15回 | 総集編まとめ試験対策 |